



復刊第152号
題字 吉岡 弥生

巻頭言

副会長 石原 幸子

記録的な暑さを誇った夏もすぎ、朝夕の涼しさにホッと一息つく思いの昨今でございます。会員の皆さまにはますますご健勝のことと存じます。年々上昇する気温は環境破壊による温暖化現象といわれて久しくなりましたが、なかなか改善の道は遠いようです。私どもの住む練馬区も最高42度Cを記録いたしました。

今年はまだ台風の当り年とか、各地に大きな被害をもたらし、自然の力の前には、人間も科学もはるか及ばぬことを実感した秋でした。

先日火星探査機により報映された火星の表の水流の跡は、地中海と同じほどの洪水が起った跡だと聞かされ、この地球もやがて人間の淘汰される時は、このように自然の力の前にのみこまれてしまうのかと不安になりました。人口動態研究者に

よりますと、二〇五〇年には日本の人口は約半分になり、少子化がもたらした自然の人口制限がまことにうまくいった文化国家であるという嬉しい話も聞きました。

9月1日は私ども開業医にとつてはまことに腹立たしい保険点数の改正がありました。これは複雑を極め、手間をとり、その終着点は未だ明解ではありません。日本医師会は一体どうなっているのでしょうか。年々多くなる女医に対して、日本医師会はなかなか門を開いてくれません。わずかに、前会長山崎倫子先生、現副会長橋本葉子先生ががんばっている現状です。

巷間でも今年は大きな事件がたくさんありました。十四歳の少年の巧妙な殺人事件、女子中学生の殺害はつい隣の青年であったり、援助交際

という名の高校生の売春、麻薬・暴行などといった出来事は遠い海の向うの国の出来事として捉えていた事件が、身近に起っていることに驚いております。

今の日本の家族の形態は大方「離性家族」というのだそうです。父親は夜おそく、母親はアルバイトに、子供・夫婦の間に意志の疎通がなく、ばらばらだということだそうです。このような形が犯罪を生む素地を作るといっておりましたのを聞き、私どもの生活もややこれに走る傾向があるのではないかと思いましたが、ちよつと時代がずれて子育てをしたことは幸であったのかもしれない。

今年のメディアの大ニュースは、何といつてもあのダイアナ王妃の衝撃的な事故死でしょう。そのニュースは一瞬にして世界を駆けめぐり、すべての事件をおおってしまいました。パパラッチという耳新しい言葉が流れ、報道のモラル、プライバシーの主張、メディアに対する批判など、一度に吹き出した感じがします。その死の是非はともかくとして、あの美しいほほえみが消え去ったことは淋しい気がいたします。

さて、日本女医会も二〇〇二年には一〇〇周年を迎えようとしております。会員の減少はこの会も一緒といわれておりますが、先輩方が苦勞して作られたこの会は大事に守つてゆかねばなりません。理事会も、人員を削減して一層張切っております。今年はまだ一歩外に出て、がん

もくじ

巻頭言.....石原 幸子 (1)

〈第16回学術研究助成研究経過報告〉

心不全発現過程における心筋筋小胞体のCa²⁺ 動員機構、及びRyanodine receptor, Ca²⁺ ATPaseの質的、量的変化の経時的検討.....大草 知子 (2)

新生児エリテマトーデス(NLE)の発症要因に関する研究.....宮川 幸子 (2)

唾液中ステロイド測定による新生児ストレスの評価.....清水 幸子 (3)

紫外線による色素細胞活性化因子の同定とそのシグナル伝達の解析.....船坂 陽子 (3)

抗接着分子抗体の心筋虚血再灌流障害抑制効果について.....川村 隆枝 (4)

国際女医会のご紹介.....橋本 葉子 (5)

「選択的夫婦別姓に関する民法改正を求めらる要望書」提出.....佐藤千代子 (8)

「医師の需給に関する検討会」報告(1).....橋本 葉子 (8)

天命か、大震災で全壊——再開まで.....宮地 千尋 (9)

〈私の大学〉 東海大学医学部.....三村 圭美 (10)

〈支部だより〉 北海道支部から.....斯波 憲子 (10)

国際中央アジア地域から——お札と写真.....橋本 葉子 (11)

○第43回定時総会のご案内..... (7)

○AAUWからの研究助成のお知らせ..... (8)

○第2回ゴルフコンペのお誘い..... (8)

○公開講演会..... (2)

○新医学用語辞典(ELISA法)..... (11)

理事会議事録..... (11)

会員動静..... (12)

編集後記..... (12)

ばってゆきたいと思っております。また二〇〇四年には国際会議の誘致を考え、準備を進めております。

第16回学術研究助成研究経過報告

心不全発現過程における心筋筋小胞体のCa²⁺動員機構、及びryanodine receptor, Ca²⁺-ATPaseの質的、量的変化の経時的検討

山口支部 大草 知子

第16回学術研究助成により行いました研究について報告させていただきます。

病的心筋では、興奮収縮連関の制御因子としての心筋細胞内Ca²⁺ホメオスタシスの変化が考えられています。一方、心筋筋小胞体(SR)は、心筋細胞内Ca²⁺動態の調節に重要な役割を演じており、我々はこれまで、ラット圧および容量負荷肥大心モデルの心筋での、SRのCa²⁺動員機構の変化につき報告してきました(J Mol Cell Cardiol, 29: 45-54, 1997, J Mol Cell Cardiol, 29: 1097-1109, 1997)。今回、開心術中に得られたヒト右心筋筋を用いて、SRのCa²⁺動員機構に関する重要な蛋白質であるryanodine receptor (RyR) Ca²⁺-ATPaseの画遺伝子発現量の変化と臨床より得られた心機能データとの比較検討を行いました。

方法と結果

対象は、開心術中に得られた先天性心疾患及び冠動脈バイパス患者の右心筋筋と、これよりguanine thiocyanate法にRNAを抽出し、ウサギ心筋RRのcDNAをもとにpolymerase chain reaction (PCR)にてプライマーを合成し、ヒト心筋RNAのreverse transcription-PCR(RT-PCR)反応を行いました。期待される長さのPCR産物をクロン化し、cDNAの塩基配列を決定し、ウサギ心筋RRのcDNAとの相同性を検討しました。また、RT-PCR法にて比較しました。心機能は心臓カテーテル検査より得られたデータをもとに解析しました。その結果、①ヒト心筋RRのcDNAの一部をクロン化し塩基配列を決定したところ、ウサギ心筋RRと塩基配列、アミノ酸配列にて、それぞれ93%、99%と高い相同性を認め両

外国の女医さんたちも、日本人のホスピタリティを高く評価し、期待してくださっております。会員の皆さま

まにはより一層のご助力、ご声援のほどお願い申し上げます。

平成9年度公開講演会 予告

日時 平成10年2月7日(出) 午後2時~5時
会場 141ビル5F スタジオホール(仙台市)
演題 『あなたに贈る明日への提言』
シンポジウム『Barrier Free』(仮題)

*詳細は追ってお知らせする予定です。主催 日本女医会 宮城県女医会

な負の相関関係を認めました。

まとめ

従来より、心臓移植時の末期心不全ヒト心筋を用いてNorthern blot解析によるSRのRyRやCa²⁺-ATPase mRNAの減少が報告されてきましたが、心不全発現過程におけるそれらの検討はまれであります。今回、少量ヒト右心筋筋を用いて、RT-PCR法にてそれらのmRNA発現量を心機能データと比較検討したところ、心不全に至る過程では、心機能低下の程度に相関して、SRのCa²⁺調節蛋白質の遺伝子発現レベルに変化が生じている可能性が示されました。またヒト心筋RRのcDNAは未だクロニングされてなく、今回、その一部をクロン化し、塩基配列を決定したところ、ウサギ心筋と非常に高い相同性を認め、両者に機能的な共通性が存在する可能性が示唆されました。

新生児エリテマトーデス(NLE)の発症要因に関する研究

奈良支部 宮川 幸子

研究助成をいただいた課題につきましては、左記のような結果がえられました。

一、母親のHLA class II遺伝子のプロファイルにより、子供の症状(皮膚症状、先天性心ブロック、あるいは

は無症状)がある程度予測可能である(J Invest Dermatol 108: 881-885, 1997)。

二、母親のHLA class II遺伝子のハプロタイプの相関が、先天性心ブロックの発症に関与している可能性がある(Arthritis Rheum 40: 982-

munty, in press)。

四、Ro/SSA, La/SSBに対する免疫応答は、人種差を超えてHLA-DQ分子の特定のアミノ酸と関連している(J Am Acad Dermatol 36: 186-190, 1997)。

唾液中ステロイド測定による新生児ストレスの評価

大田支部 清水 幸子

第16回学術研究助成を賜りました。誠にありがとうございます。助成により行いました研究「唾液中ステロイド測定による新生児ストレスの評価」について、ご報告させていただきます。

近年、成人におけるストレスと内分泌の関係についての研究が注目され、特に副腎機能すなわち血中コルチゾール値測定が生体のストレスへの反応指標の一つとして用いられています。一方、新生児に母体心音を聞かせることにより、鎮静効果があることは経験的に知られており、児童心理学の分野では新生児の表情分析や脳波などを用いての評価が試みられています。しかし、新生児副腎機能のメカニズムやストレス反応機構についてはほとんど解明されておらず、それに及ぼす母体心音の影響も見られません。血中コルチゾール測定はそれ自体すでに採血というストレス負荷を反映していると考えら

今後の方向としては、NLEの臓器障害、ことに心ブロックの子知と予防(ハイリスクの妊娠中の女性の予防的ステロイドの投与)の可能性について、さらに研究を進展させたいと考えています。今回の研究助成を基にして、当初予測したよりもは

るかに多くの成果を得ることができ、同じテーマで今年度および来年度の文部省科学研究費の助成を受けることができました。心よりお礼を申し上げますとともに、女医会のみならずご発展をお祈りいたします。

るため、今回我々はより非侵襲的な唾液を用い、コルチゾールDHEA・DHEA-Sなどの副腎ステロイドホルモンを測定し、その変化率を指標として外来ストレスに対する新生児副腎機能を評価しました。さらにそれに対する鎮静効果を母児相関の観点から心理学的立場を踏まえて検討いたしました。即ち、我々は採血を一つの外来ストレスと考え、採血前後の二回新生児唾液を採取し副腎ステロイドホルモンを測定して血中値との比較や日内変動を検討。さらにストレスに対する各種の音の影響を検討するために、録音した母体心音・太鼓音・ホワイトノイズ音の周波数分析を行い、採血時に新生児に呈示し比較したところ、何も聞かせないコントロール群やリズムが心音と同じでも低周波数型の太鼓音および汎周波数型のホワイトノイズ音を呈示した群に比して、高周波漸減型を示す母体心音群では血中・唾液中コルチゾール値は有意に低値を示し、

現在我々は、さらに触覚や嗅覚刺激の効果を検討中です。また、早産児の副腎皮質機能は未熟で副腎胎児層の退縮が遅延することから、血中DHEA-Sは正期産児の三倍高値を示します。そのため、早産児の血中・唾液中ステロイドを測定し、超音波による副腎血流や重量変化との比較も加えたデータを集積、ストレスに対する反応性の獲得の時期などについても検討を行っています。近年の新生児医療の進歩にともない、新生児も採血等の検査や各種医療機械音のストレスにさらされているとも言えます。

本研究が新生児ストレス反応機構の一端へとつながり、さらにその緩和作用の方向性を探索する一助になればと願っております。現在までの研究結果につきましては、平成8年度の日本産科婦人科学会および日本発達心理学会・日本新生児学会などに発表させていただくとともに以下の論文としてまとめさせていただきます。

- 1) Behavioral and Adrenocortical Responses to Stress in Neonates and The Stabilizing Effects of Maternal Heartbeat on Them. Early Human Development, 46: 1996.
- 2) The Effect of Sounds on Newborn Infants Under Stress. Infant Behavior and Development, 19: 1996.
- 3) The Effect of Tactile Stimulation on Newborn Infants in a Stress Situation. Psychologia, 39: 1996.
- 4) The Effect of Odors on Human Newborn Infants Under Stress. Infant Behavior and Development (in press).

終わりに、助成金をいただきましたことを改めて感謝いたしますとともに日本女医会のみならずご発展をお祈りいたします。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

紫外線による色素細胞活性化因子の同定とそのシグナル伝達の解析

兵庫支部 船坂 陽子

研究目的

皮膚は単に外界から体内組織を守るバリアーではなく、最近になり、皮膚は極めて重要な免疫臓器であり、その機能は、紫外線により抑制され、皮膚癌や皮膚感染症発症を増加させることが明らかになってきています。皮膚を構成する細胞は、93%が角化細胞ですが、そのパラクライン機能

は近年ようやく明らかにされつつあるところである。私どもは、紫外線による皮膚癌の予防に大きな役割を演じているメラニン色素がいかにして生成されるかを研究し、表皮の角化細胞が紫外線照射によりACTHやα-MSHなどの神経ペプチドホルモンを合成・分泌し、色素細胞はそれらのリセプターをより多く発現し、メラニン合成を増大することを明らかにしてきております。本研究ではメラニンの生成活性を制御する方法を明らかにし、メラニン合成を亢進させ、皮膚癌予防に役立てることを目的としております。紫外線を照射すると、遺伝子DNAに傷がつき、発癌へ向かわせることとなります。紫外線により生じる2量体が黒色腫細胞のメラニン合成を亢進させることの報告があります。そこで、紫外線を照射しないでメラニン色素の生成を増大させる方法を開発することに、皮膚老化と発癌予防に役立てることを目的としております。

方法/結果/考察

培養角化細胞および色素細胞に成長紫外線(UVB)を照射し、培養上清を十倍に濃縮した後、サンドイッチELISA法により、培養上清への放出ADF/TRX量を定量し、角化細胞においてUVB照射により大量(色素細胞の約十倍)のADF/TRXが放出されることを明らかにしました。

以上より、UVB照射により角化細胞から放出したADF/TRXは強力に色素細胞を活性化することが明らかになりました。

このたびは、紫外線が活性酸素を誘導することに注目し、表皮細胞に存在する酸化ストレス応答系であるADF(adult T cell leukemia derived factor)/thioredoxin(TRX)が紫外線照射角化細胞から合成・放出され、サイトカインやペプチドホルモンに及ぼす影響を与え、その結果メラニン生成を行う色素細胞に及ぼす働きについて検討しましたので、以下、簡潔にご報告いたします。

後再灌流六〇分後、虚血前値に比較して有意に増加した。I群に比較して、II群では有意にその増加が抑制された。III群では抑制傾向が見られたが、データのばらつきが多く、有意差は見られなかった。IV群では例数が少ないため、群間の有意差検定は行っていないが、低値を示す傾向が見られた。冠静脈中のCK, CK-MB, トロポニン値は四群共虚血

四群共虚血前値に比し、再灌流一八〇分後では有意に高値を示した。II群ではI群に比較し、有意にその増加が抑制された。I群では再灌流六〇分後に心電図上、ST-T変化や心室性期外収縮が見られたが、II群では殆ど認められず、III群ではその頻度がI群より少なかった。

はじめに、心筋の虚血再灌流障害における炎症性サイトカインの関与が注目されている。特にインターロイキン8、6(IL-8, 6)は好中球や血管内皮細胞上の接着分子の発現を増加させ、細胞障害の一因であることが報告されている。抗接着分子抗体による心筋障害軽減については、多数報告されているが、その臨床応用は抗体投与による副作用や高価な点など問題が多い。一方、従来使用されているステロイドやプロ

チアーゼインヒターは容易に使用でき、それらがIL-8, 6等の炎症性サイトカインの産生増加を抑制することにより、抗接着分子抗体とほぼ同程度に再灌流障害を軽減できれば、臨床における開心術の心筋保護等に投与することにより、心筋障害を軽減する可能性がある。そこで本研究の目的は、動物の虚血再灌流モデルにおいて、メチルプレドニゾロンまたはウリナスタチンの心筋障害軽減の有無を検討し、さらに抗接着分子抗体投与群と比較検討することである。

この研究結果が少しでも臨床面で役に立つことができればと願っております。今後とも諸先生方のご指示、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

地域医療奉仕活動助成について

地域医療奉仕活動に対し助成をいたします。申請書は女医学会本部にありますので申し出て下さい。本年度の切は平成9年12月25日です。

岩手支部 川村隆枝

事業部

- 1) Chakraborty, A.K., Funasaka, Y., Slominski, A., Ermak, G., Hwang, J., Pawelek, J.M., and Ichihashi, M.: Production and release of proopiomelanocortin (POMC) derived peptides by human melanocytes and keratinocytes in culture: regulation by UVB. Biochim. Biophys. Acta, 1313: 130-138, 1996.

- 2) Ahmed, N.U., Ueda, M., Ito, A., Ohashi, A., Funasaka, Y., and Ichihashi, M.: Expression of fibroblast growth factor receptors in nevus cell nevus and malignant melanoma. Melanoma Res, 7: 299-305, 1997.
- 3) Funasaka, Y., and Ichihashi, M.: The effect of ultraviolet B induced adult T cell leukemia-derived factor/thioredoxin(ADF/TRX) on survival and growth of human melanocytes. Pigment Cell Res, 10: 68-73, 1997.

タチンは各々虚血五分前に大腿静脈から投与した。心筋障害マーカーとして、CK, CK-MB, トロポニンを測定した。採血は大動脈から五回(虚血前、虚血九〇分後、再灌流後六〇分、一二〇分、一八〇分)左冠静脈から二回(虚血前、再灌流後一八〇分)とした。

結果: 大動脈血中のCK, CK-MB, トロポニン値は四群共虚血

はケニアのナイロビで開催予定である(表1参照)。

この研究結果が少しでも臨床面で役に立つことができればと願っております。今後とも諸先生方のご指示、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

選出される。この選挙権所有数(代表者数)は各国の女医会員の総数によって決められており、日本は二〇名の代表者により意志表示を行って、二〇名という代表者数は会の方向に多大の影響力を持っていることを強調しておきたい。現在は一九八八-一九九〇年の期間の諸役員候補が挙がっているところである。地域担当副会長は原則としてその地域で候補者を絞って推薦することになっており、西太平洋地域は各国回りの持ちのルールを決めてあるので、当番国から推薦された候補者を地域会議に推薦し、承認を得ることに

国際女医学会のご紹介

国際女医学会副会長 橋本葉子 (西太平洋地域担当)

日本女医学会は一九〇二年に前田園子氏(済世学舎卒)が数名の女医に呼びかけて会合を開き、これを日本女医学会の創立としたので、二〇〇二年に一〇〇周年を迎えようとしている。しかし、会としての陣容を整えたのは一九一四年であった。一方、一九一九年、アメリカのニューヨークに各国から女医が参集し、会議を持ち、この時万国女医学会が結成された。第一回万国女医学会議総会は、一九二四年に「産褥死」をテーマにイギリスのロンドンで開催されたが、この時は日本からは参加者はなかった。その後一九三七年まで不定期に五回、チェコ、イタリア、フランス、スウェーデン、スコットランドで行

われだが(表1参照)、日本からは一人くらいの参加であった。一九三七年から一九四七年までは国際情勢を反映して開催されなかった。戦後、万国女医学会から国際女医学会に改称し、一九四七年にオランダのアムステルダムで第一回国際女医学会議を開催してから一九八九年までは一三年間隔でやや不定期に各国で種々なテーマの基に開かれ、日本からも二桁の参加者を数えるようになってきた。一九八九年韓国で開催された第21回国際女医学会議総会において「次回から三年ごとに国際会議を開催する」ことが決定され、以後、一九九二年はグアテマラ、一九九五年はオランダで開催され、一九九八年

Dr. Ward (Scotland), President-Elect: Dr. Krosier (USA), Treasurer: Dr. Sanders (South Africa), Secretary-General: Dr. Motzel (Germany) である。八つの地域は: Northern Europe, Central Europe, Southern Europe, North America, Latin America, Near East and Africa, Central Asia, Western Pacific

に分けられ、日本は "Western Pacific Region" (西太平洋地域) に所属している。因みに西太平洋地域に所属する女医会は、韓国、台湾、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド及び日本の六カ国の女医会であり、西太平洋地域にあるその他小国からは個人加盟で参加しておられる。

において各地域ごとに国際会議を開催することがほぼ義務づけられているが、西太平洋地域会議は一九五六年から始められた。表2に示すように、第1回が一九五六年にフィリピンのマニラで開催されたから一九八六年までの三十年間開催されていまい。その理由は、国際女医学会がほぼ二年前ごとに開催されていたので、地域における国際会議の必要性の認識が低かったことにあるようである。しかし一九八六年以降は国際会議期間に合わせて順調に行われている。表2に示すように第5回西太平洋地域会議は京都で行われたが、その時の副会長はフィリピンのDr. Canlas-Dizonであり、第6回はニュージーランドで行われ、その時の副会長は日本の橋本というように、開催地と副会長の選出国が異なり、少し不便なことがある。しかし、ローテーションの組み合わせで副会長の選出国と会議開催地を同じ国にすることが難しいのが現状である。

このように、日本女医学会は国内の医学部または医科大学卒業生が誰でも入会できる組織であり、国内においては研究助成や学術講演会または公開講座等を初めとして種々の活動をしていることは周知の通りであるが、国際的にも、西太平洋地域会議や国際女医学会に参加して、学問的にも人間的にも輪を広げることができ。特に女医学会は専門分野の国際会議ではないところに魅力の一つがある。

また、四十歳以下の若い女性医師のために「Young Forum」があり、国際会議参加費の援助も行っている。現在のYoung ForumのChairmanはオーストラリアのDr. Casperで、若い医師の声を求めている。日本女医学会の皆様が、特に若い会員の皆様はご意見をどんどんDr. Casperに送ってください。

国際女医学会事務局及びDr. Casperの住所等を左記しておきます。

国際女医学会事務局：
Secretary, Medical Women's International Association
Herbert-Lewin-Str. 1, 50931 Cologne, F.R. Germany
Tel: (49)-221-4004558,
Fax: (49)-221-4004557,
e-mail: MWIA@aol.com
Secretary-General, MWIA:
Dr. Carolyn Motzel
Executive Secretary, MWIA:
Mrs. Valerie Jungmann

Dr. Casperの住所：
Dr. Grbrielle Casper
Chairman of Young Forum, MWIA
Unit 5-1 "Biharanga", 349
New South Head Road
Double Bay, New South Wales
Australia 2028
Phone and Fax: 61-2-93630035
第24回国際女医学会会議は一九九八年11月10日〜14日までケニアのナイロビのSafari Park Hotelで開催される予定である。おもなテーマは、「Investing in the Health of Women and Children」、女性と子供の健康のための投資」となっている。このテーマに興味のある方、ケニア及びアフリカに興味のある方は奮ってご参加ください。ナイロビの現状は大統領選挙が絡んでいるため社会情勢不穏な状態にあり、日本の外務省も旅行に対し注意を促しているがケニアは自然が豊かで、Safari Park Hotelは市内から少し離れた安全地帯にあるとても良いホテルとの情報を得ている。早く大統領選に決着をつけていただきたいと願っているところであるが、社会情勢不穏な状態が長引くと、会議そのものの開催まで危ぶまれる事態に追い込まれかねないことを危惧している。

第25回国際女医学会会議は二〇〇一年にオーストラリアで開催することが決定している。第26回二〇〇四年の開催地はケニアでの総会で決まることになるが、日本女医学会が創立一〇〇周年を記念して、再び立候補する意志表示をすることは、今年日本女医学会総会で承認されている。現在、一九七六年の時よりは日本女医学会員が減少している中で、これからは若い方が喜んで入会し、会のために働いていただけるよう、女医学会の活動を考えているところである。老若を問わず日本女医学会へ入会され、国際的にも活躍されることを希望するものである。

■定時総会のご案内

開催日 平成10年5月16日(土曜日)
会場 宇都宮ロイヤルホテル
〒320 宇都宮市江野町一―一六
TEL 〇二八―六三三―〇三三
FAX 〇二八―六三三―二四〇二

日程
平成10年5月16日(土曜日) 行事
評議員会 一〇時三〇分〜一二時〇〇分
昼食 一二時〇〇分〜一二時四十分
総会 一三時〇〇分〜一五時〇〇分
休憩 一五時〇〇分〜一五時二〇分
記念講演 一五時二〇分〜一七時〇〇分
懇親会 一八時〇〇分〜二〇時三〇分
アトラクション 「未定」

平成10年5月17日(日曜日)
①日光、鬼怒川、川治方面
②益子焼の里

ゴルフご希望の方は、申ししてください。コースを予約いたします。

●栃木支部だより
そろそろ秋の気配も感じられる今日このごろです。来年5月栃木で、総会を開催させていただくことになりました。
まだ具体的に定めておりませんが日時、場所等をお知らせし、詳細は次号に掲載させていただきます。

表1 国際女医学会会議開催地及びテーマ

開催年	回	開催地	日女医参加数	テーマ
1924		イギリス(ロンドン)	0	産褥死
1926		チェコ(プラハ)	0	結核と妊娠
1928		イタリア(ボロニア)	1	子供を守るための医学的手段
1929		フランス(パリ)	1	小児及び思春期における性教育、出産時の麻酔について
1934		スウェーデン(ストックホルム)	1	体育、受胎調節
1937		スコットランド(エディンバラ)	0	女性における痛みの予防、母性死亡及び流産
1947	1	オランダ(アムステルダム)	0	戦後再建と女医の責任
1949	2	フィンランド(ハミンリナ)	0	主婦における疾病
1950	3	アメリカ(フィラデルフィア)	0	女性の貧血、主婦業における病理及び衛生
1954	4	イタリア(リヴィエラ)	0	更年期
1956	5	スイス(ブルゲンストック)	0	結婚婦人の職場での諸問題
1958	6	イギリス(ロンドン)	3	思春期の問題
1960	7	ドイツ(バーデンバーデン)	19	老年婦人の問題
1962	8	フィリピン(マニラ)	19	医師と両親教育
1964	9	ノルウェー(サンテフィヨルド)	26	慢性疾患の予防
1966	10	アメリカ(ロチェスター)	30	女医に適した活動分野について
1968	11	オーストリア(ウィーン)	44	飢える百万人
1970	12	オーストラリア(メルボルン)	47	産業に携わる女性の健康
1972	13	フランス(パリ)	90	トキソプラズマ症
1974	14	ブラジル(リオ・デ・ジャネイロ)	90	健康に影響する遺伝及び遺伝因子について
1976	15	日本(東京)	640	ウイルス性疾患とその後遺症、地域医療における女医の役割
1978	16	ドイツ(ベルリン)	207	マスメディアと医療
1980	17	イギリス(バーミンガム)	75	発展途上国及び先進国における医療の優先権について
1982	18	フィリピン(マニラ)	39	心ある医療 ―医療の人間性―
1984	19	カナダ(バンクーバー)	87	男と女 ―生物学的・行動学的差異―
1987	20	イタリア(ソレント)	72	青年期 ―医学・心理・社会面―
1989	21	韓国(ソウル)	55	各国における女子の“がん”罹患について
1992	22	グアテマラ(グアテマラシティ)	26	全ての子供のための健康
1995	23	オランダ(ハーグ)	37	変化する世界の中での女性の健康
1998	24	ケニア(ナイロビ)		女性と子供の健康のための投資

表2 国際女医学会西太平洋地域会議開催地及びテーマ

開催年	回	開催地	日女医参加数	テーマ
1956	1	フィリピン(マニラ)	2	
1986	2	台湾(台北)	16	西太平洋地域の女医が誓約するチャンス、多い疾病、各国の特色
1988	3	フィリピン(マニラ)	4	発展と平和への予防医学
1990	4	オーストラリア(ブリスベン)	26	21世紀に向けての女性の健康に関する論点
1993	5	日本(京都)	323	高齢化社会における医療
1996	6	ニュージーランド(オークランド)	52	家族の健康と幸福
1999	7	韓国(ソウル)		

「選択的夫婦別姓に関する民法改正を求める要望書」提出

会長 佐藤千代子

本年5月24日開催の定時総会におきまして、青森県支部花田チヅ会員より、表題について日本女医学会より国会に要望書を提出していただきたい旨の緊急動議があり、現在研究現場で活躍中の会員より賛成の発言が続き、出席者の一致した賛同を得て提出を採択いたしました。

要望書提出に当たっては、衆議院議員大島理森先生(青森県選出)の藤田秘書氏より懇切なご助言を得て、大島議員を始め家族法改正に関する小委員会各氏宛提出いたしました。

次期国会でこの問題が取り上げられますことを切に希望いたしておりますが、ご協力を願います。

然し乍ら女性結婚によって姓を変えなければならぬとされることは個としてのアイデンティティーの否定であり、人格権の侵害といえま

特に学問に専念する女性にとり継続する研究論文の著者名が婚姻により姓名の変更を余儀なくされることは、研究から離脱したと誤解を招くおそれもあり、ひいては研究そのものを断絶したと誤認され、研究評価の低下を招来することも推測されま

選択的夫婦別姓に関する民法改正を求める要望書

(要旨)
医学研究者の立場から「選択的夫婦別姓に関する民法改正」についてご理解を賜わり迅速な促進をお願いしたい。

(理由)
近年、女性の社会活動が参加から

「医師の需給に関する検討会」報告

副会長 橋本葉子

このたび厚生省の中に「医師の需給に関する検討会」が発足し、十四

名の委員を以て構成されていますが、橋本が日本女医学会からの代表として

指名されましたので、佐藤会長ともご相談の上お引き受けいたしました。委員は病院長、私立医科大学協会理事、医事評論家、経営管理学会教授、日本医師会理事、製薬関係者、弁護士、新聞論説委員、医学部長、地域医療関係者などさまざまな分野からの代表者で構成されております。

医師の需給に関してはこの委員会が初めてではなく、「将来の医師需給に関する検討委員会」は既に一九八四年十一月に中間意見を公にし、事態の重大さを関係方面に伝えております。

その中心となる提言は、

①二十一世紀に向けて揺るぎない保健医療供給体制を確立するために、医師過剰を招かないよう所要の措置を講ずる必要がある。

②本委員会の医師需給バランスの将来推計によると、二〇七五年には医師の約一割程度が過剰となると予想される。

③この将来推計は、医師過剰については控えめなものであり、この点と医師数の抑制に要する時間を考慮すると、当面、一九九五年を目途として医師の新規参入を最小限10%程度削減する必要がある。

というものであります。委員会は、一九八六年六月に「医師の需給については控えめな見解を保持し、一九九五年を目途として医師の新規参入を最小限10%削減すること」という最終意見を再提案いたしました。

新規医師参入の削減に際し、併せてとるべき施策について、

①医師の役割分担の検討
②へき地等における医師の確保対策
③救急医療体制の整備と医師確保の施策
④基礎研究、公衆衛生の分野における医師の充実
⑤医学教育の充実
⑥卒後研修制度と生涯教育の充実
⑦国際協力のための限定された臨床研修許可制度の検討

その他、「医師需給の見直し等に関する検討委員会」が一九八六年六月に意見書を、「二十一世紀初頭における医療提供体制について」国民医療総合政策会議中間報告が一九九六年十一月に、「今後の医療保険制度のあり方と平成9年改正について」(建議書)が医療保険審議会から一九九六年十一月に、「財政改革の推進について」閣議決定が一九九七年六月に提出されております。

医師需給の推計に関して考慮すべき因子として、

①供給
新規参入Ⅱ入学生数、卒業生数、医師国家試験合格者数
稼働率の低下Ⅱ高齢医師、女性医師、死亡
②需要
患者数の動向Ⅱ人口構造、外来・入院受療率、要介護老人、診療間隔、在院日数
医療の供給体制Ⅱ医師一人当たり

日本女医学会では研究の第一線に於て活躍している会員より多くの訴えと要望が寄せられています。即ち、結婚前二百を越える業績があり今後助教授、教授に昇進する可能性があるとしても、過去の業績が自分のものでなくなつて了う、特にコンピュータ処理ではそのおそれが増幅するのではとの不安がある。これは研究現場にいる女性医師にとり切実な問題であり、是非別姓を認めてほしいとの要望であります。

国際的にも最高のレベルにある医学の分野に於て、婚姻後も夫婦別姓の選択により学術論文を一貫した姓名をもって発表できる意義は格別に大であると考へ、選択的夫婦別姓に関する民法改正を早急に進められるよう要望いたします。

一九九七年九月一六日
日本女医学会 会長 佐藤千代子
日本女医学会 青森県支部会員 花田チヅ

取り扱い患者数、患者一人当たりの診療時間、医師一人当たりの病床数、医療機関以外の療養環境の整備、医師の勤務時間、救急医療・僻地医療

・医学の進歩Ⅱ治療技術の進歩
・非臨床分野Ⅱ基礎医学、行政
・その他Ⅱ臨床研修の指導医

等が挙げられております。

一九九五年を目途に新規医師参入の10%削減をというものであります。一九九七年現在、削減率は全体として7・8%に止まっております。国立大学は10%削減、私立大学は5・6%削減を執行しておりますが、公立大学は0%であります。

今回の検討会は、これらの提言や膨大な資料を基に医師の需給および供給に関する諸問題を洗いなおし、建設的な且つ具体的な意見を具申す

AAUW Educational Foundation International Fellowshipのお知らせ

AAUWはAmerican Association of University Womenの略語です。この団体からアメリカ留学のためのフェローシップの公募が参りましたのでお知らせいたします。

年度：1998年—1999年 支給額：\$15,160 申請者：5名まで

選定規準：
① 学問的に優秀でリーダーシップの能力が証明される人
② 地域あるいは職場の中で、他の女性と協調しながら生活することができる人
③ 留学後確実に元の職場に戻る人

資格：
① 以前又は現在AAUWフェローシップをもらっている人は申請できない。
② 申請者は1997年12月1日以前に学士又はそれと同等の資格を有すること。
③ アメリカ人およびアメリカとの二重国籍を有するものは申請できない。

応募期限：
① 正式書類提出期限：1997年12月2日
② 申請書請求期限：1997年11月15日
③ TOEFLスコア提出期限：1998年2月15日

手数料：AAUWに支払うため\$20.00の為替又は小切手を添えること。

参考：1997年—1998年の申請者は1,010名、フェローシップ授与者は45名。

*詳細は事務局にありますので、申請希望者はお申し出ください。
(ナショナルコーディネーター・平数淳子)

第2回 ゴルフコンペのお誘い

日時 平成9年11月16日(日) 9時03分スタート
場所 武蔵ヶ丘ゴルフコース
飯能市中山 電話：〇四二九七三九六六六
*お申し込みは、埼玉支部大竹喜世までお願いします。
川越市大手町四一三 電話：〇四九二二二四一四一

責任を負わされております。現在までに三回検討会が開かれ、医師の需給に関する経緯と現状、諸外国の状況、医師需給の検討に際して考慮すべき因子、等について論議し、医師の需給に関する論点を整理し、次回から本格的な検討に入ることにいたしました。それには新たな資料の提出も求められておりますが、一九九五年に行いました女性医師のアンケート結果の一部も一資料に追加されることになっております。現在月一度の頻度で検討会が開催されておりますが、そのうち間に合わなくもつと頻りに検討会が開催されるようになるかもしれません。可能な限り検討会の経緯をご報告したいと考えておりますが、皆様のご意見もお聞かせいただきたいと存じます。

いご支援とご協力によりいよいよ新病院が診療を再開しました。新病院は百五十八床の耐震構造で病院らしくないシャレタ建物です。のんきな私には病院再建を決心したときにはまだどんな病院にするかという明確な考えはありませんでした。でも各界の有識者の方々や両親と相談したり、仮設診療所で地域に密着した医療を行ううちに、新病院のコンセプトが出来上がって行きました。

その1 患者様はお客様だということです。こんなことは当たり前のことですが、人口の激減している地域では重大です。患者様の使われる所は居住性の良い、病院臭の無い明るい雰囲気にする。病室、廊下は広く、各病棟に食堂と談話室、各病室にトイレ洗面所を設置した。

その2 患者様は待つていても来てくだらない。必要とされているときにこちらから行って差し上げるか、お迎えに行く。つまりどこでも心のこもった医療、温かい看護、介護を提供する。往診、訪問看護、訪問リハビリ、デイ・ケアを実施した。さらにはホーム・ヘルパー派遣事業も実施したい。

その3 もともとこの地域は高齢者が多く震災後は私の両親を含め特に高齢者が心身ともに大きな打撃を受けていたので高齢者の医療、介護を大切に。ADLの訓練、リハビリに重点をおいた介護力を強化した。4月には52床の老人保健施設を開設

天命か、大震災で全壊

無我夢中の再開まで

兵庫支部 宮地千尋

四十数年前、私の両親はよりよりにって阪神・淡路大震災の激震地となるこの神戸の東灘区に診療所を開設し、幾多の艱難辛苦を乗り越えて二百床の病院に育て上げました。震災で一瞬にして宮地病院が全壊してしまつた衝撃は言葉では表せないものでした。しかし運命は私の両親を見

捨てず三人の子供たちを奮起させたのです。震災で若くして(？)天命を知ったかみえる長女の私の病院再建の決意に弟たちも賛成してくれました。決意に至るまで地域の方々や患者様から「待っています」と励まされたことはありがたいことでした。今年4月、いろいろな方々の温か



国際中央アジア地域から

Dr. Basuからお礼と写真

橋本葉子



日本女医会誌復刊第一四八号(平成8年10月25日発行)に「中央アジア地域から寄付のお祝い」を掲載していただき、ありがとうございました。子供服をはじめ聴診器や手術器具などをお送りいただきましたので、早速国際女医会副会長中央アジア地域担当のDr. Tulsi Basu宛にお送りしました。

先日、Dr. Basuからお礼の手紙とお写真が三枚届きました。とても喜ばれ、皆さまによりしくとのこと、ございましたので、いろいろお送りいただきました。会員の皆さまに、本誌をお借りしてお礼を申し上げます。写真は皆さまからお送りいただきました洋服を着ている子どもたちがたくさん写っております。ありがとうございました。



理事会議事録

日時：平成9年4月26日(土) 午後3時30分より

場所：京王プラザホテル

出席者：藤原、白浜、中濱、野澤、青井、石原、稲生、佐々木、野本、橋本、橋本、松井、丸茂、大坪、加藤、川田、佐伯、鹿田、清水、田中、西嶋、久田、松本、宮原、村田、吉崎、南雲、野呂、藤岡、山崎名誉会長

欠席者：栗原、佐野、平敷、大澤山本 (以上5名)

理事会開始に先立ち東京女子医大地域保健研究会に助成金として二〇万円を授与する。

3月理事会の議事録を承認。

議事検討事項

一、庶務報告 村田理事

別紙とおり報告、承認される。

二、会計報告 青井常任理事

平成9年3月分収支別紙とおり報告、承認される。

三、各部報告

【渉外部】 松井常任理事

総理府男女共同参画室発行の小冊子「えがいてネットワーク」の紹介

【事業部】 丸茂常任理事

・バザーの準備進行中。

・吉岡弥生賞授賞決定の「母乳育児をすすめる会」より謝辞があった。

【広報部】 稲生常任理事

・第一五〇号会誌まもなく完成予定

【学術部】 橋本常任理事

・今年度は東京以外の地域で研修会等開催する意向。

・5月初旬に行われる国際女医会議役員会に出席予定。

【会長報告】

・選挙立候補者は定員内であったため選挙は行わない。

四、総会について

(1)平成8年度収支決算及び平成9年度予算案 別紙資料に基づき検討する。

(2)評議員会および総会次第 別紙通り決定。また、昨年同様所要時間を短縮するよう心掛ける。

(3)会務報告(案) 別紙送付済み資料に基づき検討、校正する。

(4)次々期総会開催地 次期候補

開講演会で思春期を取りあげると報道されましたところ、それが契機となり、道内三医科大学の産科、泌尿器科、小児科の各教室、北海道看護協会、北海道教育委員会、道内各都市の性教育研究グループなどが集まり、北海道思春期研究会が発足いたしました。

私はこの春日本女医会総会に初めて出席したのですが、格式高く形式的で堅苦しいのではとの予想に反し、明るくエネルギーが溢れて、各方面で活躍されている諸先輩を目の当りにし、大いに力づけられて帰ってまいりました。

男女共同参画二〇〇〇年プランでは大学に対しても女性の登用を促進するところながら道内では医学部としては今月末に初の女性教授が基礎系に誕生いたしますが、現在では歯学部基礎系に一名の女性教授がいるのみです。けれど道外では臨床系にもたくさん女性教授がいらっしやることを知り、道内でも女性教授の出現に向けて何か支援出来ればと強く感じました。

女医会総会では二年後は北海道での声が多く、帰りましてから臨時総会を開いた結果、次回の総会で皆様のご要請がございましてならば担当させて頂いたと存じます。その節は北海道支部の会員一同心をこめてお迎えいたしますので、どうぞ一人でも多くの方が来道されますようお願い申し上げます。

新医学用語豆辞典

ELISA法

ELISAとは enzyme-linked immunosorbent assay の略で、酵素免疫抗体法とか酵素結合免疫吸着剤検出法とか言われているもので、抗原抗体反応を利用した感度の高い測定法の1つである。この方法は特別な施設設備を必要としないので、基礎医学を初め広い範囲の研究に使用されている。

私の大学 【東海大学医学部】

神奈川支部 三村圭美

私が学びました東海大学医学部は神奈川伊勢原市の高台、望星台にあり約十萬五千平方メートルの敷地には医学部、健康科学部の校舎があり、二十一世紀の医療、看護、福祉を支える人材を育成しています。併設する附属病院は、学生たちが医療現場を身近にできるばかりでなく、地域の人たちとの交流を通じて人間性豊かな医療看護を学ぶ最適な環境となっています。

医学は在学中に修得しなければならぬ事がとても多い学問なのでカリキュラムは第一に一年次から臨床医学に触れ、第二に低学年からの少人数教育、第三に教室の垣根を取り払った統合カリキュラム、第四に多様なことが学べる選択科目制度の採用、第五に実地重視の臨床実習、第六に国際化に対応する医学英語充実と交換留学制度、一年次で英文の医学教科書を使用し、少人数授業で医学の全体像をつかみ、初期病院研修では救急当直などの業務を実際に体験し、二、三年次では小グループで与えられた課題について討論し知識

その4 診療所の在宅医療で多くの患者様を取った経験をふまえ、死に方、看取り方を選択できるような支援する。高齢者の場合住み慣れた地域、自分の家というのが理想と思われ、療養型病棟でレベラップして自宅へ帰し訪問看護、訪問リハビリ、デイケアで支援する。家族の介護の負担を軽減するためショート・ステイ、ホームヘルパー派遣を行う。

その5 いつでも良質の医療と看護を提供する地域のニーズにあった救急医療を行う。

その6 病気以外の楽しい目的で病院へ行こう。

地域とのふれあいの場を提供できるようにする。フェニックス・ホールと名付けた多目的ホールを設け地域に開放した。展覧会、コンサート、地域との交流に活用している。

再開後六カ月は無我夢中のうちにあつという間に過ぎてしまいました。目標に向けてこれからのよい内容の充実を図り、経営を軌道に乗せたいと思っています。震災後の私のモットーは「転んでもただでは起きない。」「一生懸命努力すれば必ず道は開ける。」です。

北海道支部から

北海道支部 斯波憲子

北海道では日本女医会北海道支部の名称の下に道内在住女医約九百名の内三百名弱が会員となっており、けれど日本女医会会員は六十名弱と名称と実体が一致しておらず、検討課題となっております。当支部では年に二回例会を開き、講演会、懇親会をもって親睦を深めてまいりました。また年に一回市民向けの公開講演会を開催し市民に定着しております。

さて本年4月より支部長以下役員が一新し、伝統を引き継ぎつつさらなる発展を目指しております。

まず当支部の存在があまり知られていないため会報を発行し、女子医学生、道内医師会等へ発送することにいたしました。近々皆様の支部へも届くことと存じます。お目をお通しください。

また現在の医療を取り巻く諸状況をみますと従来のように診療を通じて社会に貢献するだけでなく、女医の視点から積極的に発言する必要があると感じております。諸団体とのネットワークも大切だと思います。

5月末に北海道新聞に新支部長紹介の記事がのり、前記の趣旨の他公

の応用や実習の方法を会得します。もう一つの特色は教育計画部という専門部局をおき、ここで講義間の調整を行って、無駄を省き、臨床実地に触れる機会や効率的教育体制を整えており、卒業教育との一貫性を持たせていることです。

私が卒業して今でも思い出す心に残る医学部長先生のお言葉で「名医になるより良医になれ。」病気でなく病人をみる。は、ただ単に特殊な医学知識や技術のみに優れるのでは

なく、倫理観に裏付けられた豊かな人間性を持ち人の心を理解する。まさにこれからの医師の姿として一番大切なことだと思われれます。母校を卒業して臨床を続ける毎日の中で患者さんを良く知り、愛し、信頼されることが治療の始まりであり、人間の尊厳への敬意を持ち患者さんの精神的な支えになることを教えてくれた六年間の大学生活に私は深く感謝しています。

結論を保留し前向きに対処すること
決定。
八、その他
東京シテイククラブの会員権を今
後どうするか詰ったが、解約するこ
とに決定。

理事会議事録

日時：平成9年6月28日(土)
午後3時30分より

場所：(社)日本女医学会会議室

出席者：佐藤、石原、橋本、大澤、
大坪、川田、栗原、佐々木、澤口、
鹿田、清水、田中、橋川、久田、平
敷、松井、丸茂、宮原、村田、吉崎、
中濱、野澤 (以上22名)
欠席者：加藤、青井、西嶋、松本
(以上4名)

理事会開始に先立ち、会長、新副
会長、新理事の挨拶があった。
議事検討事項

- 一、庶務報告 久田理事
別紙どおり報告、承認される。
- 二、会計報告 栗原理事
平成9年4、5月分収支別紙どお
り報告、承認される。
- 三、各部報告

【學術部】 特になし 平敷理事
【事業部】 丸茂理事
・総会日に開催したバザー大成功裡

に終了。収益金二二三、五〇〇円
は雑収入として会計に組み入れる。

- 【広報部】 大坪理事
・第一五〇号会誌を送送。第一五一
号会誌の原稿を依頼中。
- 【渉外部】 松井理事
・「男女共同参画推進連帯会議」が
りてネットワーク」に出席の報告。

【会長報告】 白浜
石原、橋川、久田
北海道支部より次々年度の総会を
開催承諾の連絡があった。
総会にて承認された「選択的夫婦
別姓」の要望書提出については、
代議士秘書に相談の上、文案を作
成する。

四、役員役務分担および各役員会に
ついて

		理事 (敬称略)	
	副会長	理	事
庶務部	石原	鹿田、清水、橋川、宮原	
學術部	橋本	大澤、澤口、西嶋、平敷	
会計部	加藤	青井、川田、栗原	
事業部	石原	久田、松本、丸茂、吉崎	
広報部	橋本	大坪、佐々木、村田	
渉外部	加藤	田中、松井	

五、平成9年度役員開催日および開
催時間について

・理事会開始時間を4時にする。
・来年の総会開催日を5月第3週の
土曜日(5月16日)にする。

六、会員名簿発行について

- ・A4版、JIS番号・JIS記号を記入
振り仮名はローマ字、索引はペー
ジ数で、などの変更を決定。
- ・広告料二分の一ページ五万円、一
ページは一〇万円。趣意書を作成
し、広告の協力企業を探す。
- ・北斗社に見積りをとる。

七、平成10年度第43回総会について
日時：平成10年5月16日(土)
場所：栃木県宇都宮市
ロイヤルホテル

八、その他
(1)二〇〇四年国際女医学会につい
て

・来年の国際女医学会で決定される
が、広島のコベンションより会
議運営内容について面談したいと
の申し出があり、次回理事会終了
後に話し合う。
・平敷理事を中心とした誘致のため
の委員会を組織することに決定。
(2)事務職員の夏期手当、二カ月と
する。
(3)預金の運用は会計部で有利な方
法を検討する。

(4)バザー収益金及び(株)イーグル
からの返礼金は雑収入として会計に
組み入れる。
(5)自然退会者(会費三年未納者)
の見直しを次回理事会で検討するこ
とに決定。

副会長(庶務部担当) 石原
鹿田、橋川、宮原

会 員 動 静

- 入会者(敬称略)
- 北海道支部 山田亜希子、山家英子
 - 青森支部 後藤麻美、斉藤美貴
 - 群馬支部 尾内映子、片平文、川辺
 - 志津子、藤田萬理子
 - 埼玉支部 小川幸子、冠木敦子、佐
 - 々木道子

集 記

山々からは初冠雪の便り、里にも
秋は目に見えて深まってあります。

長い間広報の顔として会員の脳裡
に定着された稲生先生御勇退後の会
誌、いかがでしたでしょうか。橋本
先生は改めていうまでもなく、凄
の一言の知恵袋、大坪先生は幸いに
もご留任で手際よく完璧な実務派、
村田先生もキメ細かな配慮で大張
り切り、さて私はと申せば、始めて
の広報担当に未だ迷走の反覆ではあ
りますが、早く要領を会得してより
よい会誌編集のお役に立ちたいと存
じます。

今回は多数のご投稿ありがとうございます。
一部次号廻しになります。
が悪しからずご了承くださいませ。
最近、医学の進歩はますます加速
がついて参りました。折角掲載され
た研究発表に接しましたが、お若い
方々は当然ご存じの筈ですが、卒業

- 栃木支部 秋山伸恵、大野照子、賀
- 川治美、菊池洋子、児玉
- 芳子、牧野礼子、宗形葛
- 子
- 目黒支部 塙陽子
- 退会者 一六名
- 物故者(敬称略)
- 群馬支部 真中はるえ
- 神奈川支部 楠好子
- 江東支部 河谷やす子

年を重ねた者には理解のおよばぬ用
語がたくさん出てまいります。そう
した用語を一つなりとも取りあげ、
分かりやすく解説するコーナーを設
けてみました。お役に立てば幸いと
存じます。

このところ、医療界にもわかに多
事多難。関係者の心の動揺も大でし
ようが、何はともあれ誠実を貫き、
また皆まとまって力強くことに当り
たいものでございます。
(佐々木)

日本女医学会誌

第152号 平成9年10月25日発行

編集人 大坪 公子
発行人 藤 千代子
制作 (株)金剛出版

発行所 社団法人 日本女医学会

東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150 FAX 03-3498-8769